

要旨

正義と力の関係について、本論文ではアニメ『PSYCHO-PASS』の世界観を用いてこれを紐解いていく。筆者はこの作品の核心を個人の意志決定にあると考え、監視管理社会の時代に生まれた主人公の一般意志と特別意志に重きを置き書き進めていくことにした。本論文では正義の対象である悪を作中の監視管理システム——シビュラシステムと決定づけた。その上で監視管理社会がどのように形成され、人々がなぜ契約を結ぶことにしたのかを明らかにするべく、古代のアリストテレスから近代のルソーなどの先行研究をかいつまんで作品と照らし合わせる。

その結果辿り着いたのがパスカルの『パンセ』であった。監視管理システムが確実なものとなった本作品では人々の契約への信頼の根源はシステムが成し遂げた合理的な社会の実現にあり、このため正義と悪が共存していることが判明した。そして全人類の理性が求める究極の幸福を現実にした力の前では、人々は必然的にこれを正義として、強いものに従うしかないのであった。

キーワード：正義、力、意思決定、監視管理社会、一般意志、特別意志